
Have a Relation to All Story

& 竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Have a Relation to All Story

【Nコード】

N3795BA

【作者名】

&竜

【あらすじ】

美と愛の神ウエヌスの司る世界。人々は自らを磨き、魅力を高めていた。

魅力＝魔力の総量となるこの世界。魅力とは、人をひきつけ夢中にさせる力、魔力とは魔法を行使するために必要な力。

互いは比例し、魔力が高まれば魅力を生み、魅力が高まれば魔力は高まった。

そんな世界になり300年の月日が経った世界では、魔法を中心とした政治が成り立ち、また人々は各々の魅力を高めるための学校

を日本と呼ばれていた国に設立した。

国立特殊技能専攻大学。この学校を中心に、様々な世界的問題を解決する、思考の学園物語——！

——最高最悪の格差物語をあなたに捧げます。

「合格してる……だよ？」（前書き）

「合格してる……だと？」

Have a relation to 〃 関係がある All
story 〃 全部 すべての物語

——すべての物語は関係している——

*国立特殊技能専攻大学 〓 集会館〓

「301、302、1つとんで304……」

きょうり 木造の体育館のような二階建て物の入り口前広場に掲示されているボードとにらみ合いながら、段々と顔を悪くしていつている少年がいた。

その周りには泣き崩れるもの、余裕の笑みを保ちながら絶望しているもの、胸上げを失敗し大慌てしているグループ、無言で涙を流すものとさまざまな人間がいた。

受験の可否発表。それはすべての受験者の今後の人生を決めるといつても大袈裟ではない。

国立特殊技能専攻大学

——通称『特専』。その名の通り、特殊技能（生理的な技能ではなく、生まれてから身に付ける技能。主に動きや身体を極めるものが多い）を専攻して学ぶことのできる学校であり、3年間の基礎課程、1年間の専門課程を経て卒業となる。

卒業後の就職率は安定しないが、社会への評価は極めて高いものとなる。

また、普通科も設けられているが、受験者は極めて少なく、卒業

後も中流大学と変わらぬ程度の評価である。能力が認められれば、1年生の間であれば普通科から各専攻科に移ることも可能である。

専攻科の数は把握できないほどあり、生徒数が1名以上であれば存続できるため、100を超えているとか。パンフレットで紹介されない科は多い。

謎が多いが、一番の謎は生徒数で、一般公開されている人数は約2000人とされている。また、世界に分校はなく本校ひとつにもかかわらず、世界一の大学と校長代理が自称している――

「318、321、323……346！ あ、あつた……俺の番号」
先ほどまで顔を悪くしていた少年の顔は瞬く間に明るくなり、笑顔をこぼした。ついでに涙もこぼしながらひざから崩れた。

「え、うそっ！？ ねえねえ、348番は！？ ある！？」

彼の数歩後ろで、祈るように、手を組み指を力強く絡ませていた女性（というには少し若い気もする）があわてた様子でうつろ跪く彼に尋ねた。

「うう……グスッ、え？ あ、ああ今見てみます」

彼は気づいたように泣き止み、立ち上がって再び数字探しを始めた。彼女は目を閉じ、祈りを続ける。

「えーっと……、何番だっけ」

「348番……」目を閉じたまま、かすれた声で言う。

「あ、はい。……あ」

「あつた！？」彼女は噛み付くように聞いた。

「うん、ここに」

そう言っただけは数字の並んだボードを指差し、彼女はそれを恐る恐る確認した。

『348』

確かにそこには348番の数字が。彼女はそれを見た瞬間、静かに泣き崩れた。

彼らはまだ知らない。合格こそが、正では無いのだと。人生の選択は、努力がハッピーエンドに向かうわけではないのだと。この学校では、それを思い知る。幾人の破れた夢を背負いながら――

物語は一章へと進む。後戻りは 今しかできない。

「合格してる……だと？」（後書き）

小説における重要な部分、『導入』を書くのが苦手な&竜です。
皆様に喜んでいただくため、精一杯書きたいと思いますので、ど
うかよろしく願います。ここの表現おかしいんじゃない？ み
たいな感想をいただけるととても嬉しいです。

「入学式に来ました」

現在から約300年前、世界各地の神が争いを始めた。

その争いは聖戦と語り継がれ、多くの神が消え、その力を失った。

そんな聖戦の始まりから約2年経ったある時、ついに世界に一神だけとなった。

それこそが愛と美の神、ウエヌス。彼の神は最後まで争うことを拒み、隠れ潜んだ。

結果、ウエヌスを除く他の神はすべて討ち合い滅んだ。

そして、慈悲深いウエヌスは、神の聖戦により大きな損害を得た人間の導き手として君臨されることとなりました。

ウエヌスは人間に力を与えました。

ウエヌスの力は美しいものにこそふさわしい。

誰ともなく、みんながそんなことを言い出しました。

人々は神の加護、つまり今で言う魔力を受け取るべく自分を磨き始めました。

綺麗な細工を作る者、美しい容姿をさらに磨き上げる者、剣術稽古に勤しみ無駄をなくす者、学問を究め美しい頭脳を作り上げてい

く者とさまざまでした。

ウェヌスはこの様子に満足し、さらに魔力を分け与えていきました。

そして20年前、人間に魔力を与えすぎたウェヌスは、最も美しい人間、ヴィーナスと名乗る現世界最高責任者兼世界的アイドルにより、討たれることとなったのです……。

「おしまい、っと……」

「すっごく……！　ね、お兄ちゃん！」

「ん？　ああ、確かにすごいねえ」

「このお話、全部本当なのかなあ……？」

「ん、お母さんに聞いてごらん。多分、教えてくれるかも」

そう言って、艶のある流れるような黒髪を短く束ねた青年は、その手に持っているまだ新しい絵本を静かに閉じ、立ち上がる。

それに釣られるようにして立ち上がった少女の髪は青年の彼と同じ艶のある黒で、肩甲骨辺りまで尻尾のようにひとつにまとめられ垂れている。

「うん、聞いてきまーす！」

少女はそう言い残し、ずいぶんと殺風景な部屋のドアを勢いよく開け飛び出していった。

「……聖戦、か」

青年は小さく呟き、部屋の壁に沿って佇んでいる隙間だらけの本棚に絵本を片付け、部屋の大半を占める白いシングルベッドに身を任せた。

星の綺麗な夜だった。……そんな気がした。

国立特殊技能専攻大学入学式当日――

桜色の明かりで彩られた歩道を進むと、目の前に巨大な門が見えてくる。全長360センチメートル、一見門式石造りの古風な風貌ではあるが、校長による魔力により、最先端の感知魔法がかけられていた。

ちなみに魔法の範囲は校門だけに留まらず周りの、古城を思わせる洋風な鉄柵にも施している。周にして約3000メートル。

その巨大な校門前で一組の男女が話している。

「みーくん、準備はいいかい？」そう言葉を発しながら門を窺う少女はまだ全身にあどけなさ残り、少年よりも若く見える。

「上々かな。歌はどう？緊張、してない？」その言葉を受けた少年はどこか柔な印象を持つが、はつきりとした口調に澄んだ声が合わさり安心感を生む。

「してない。って言ったらウソになるなあ。まあ、感動はしてるけど」

「同じく。泣いちゃいそうだよ」

「私も泣いちゃいそうだよ、君とは違う理由でさあ」そういつて彼のほうを向く。

「……遅刻は、一般常識で考えたら厳禁だよねえ」

視線を向けられた彼は情けないような顔をし、彼女の目を見つめ返した。

若干の涙を浮かべながらも、その眼差しはしっかりとしている。

「校長のお考えの深さに賭けるしかないね、うん。……まあ、兎にも角にも行きましょか！」

その視線を受けた彼女は門に向き直り、彼と同時に重き門を押し
た――

「入学式に来ました」(後書き)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3795ba/>

Have a Relation to All Story

2012年1月10日12時46分発行